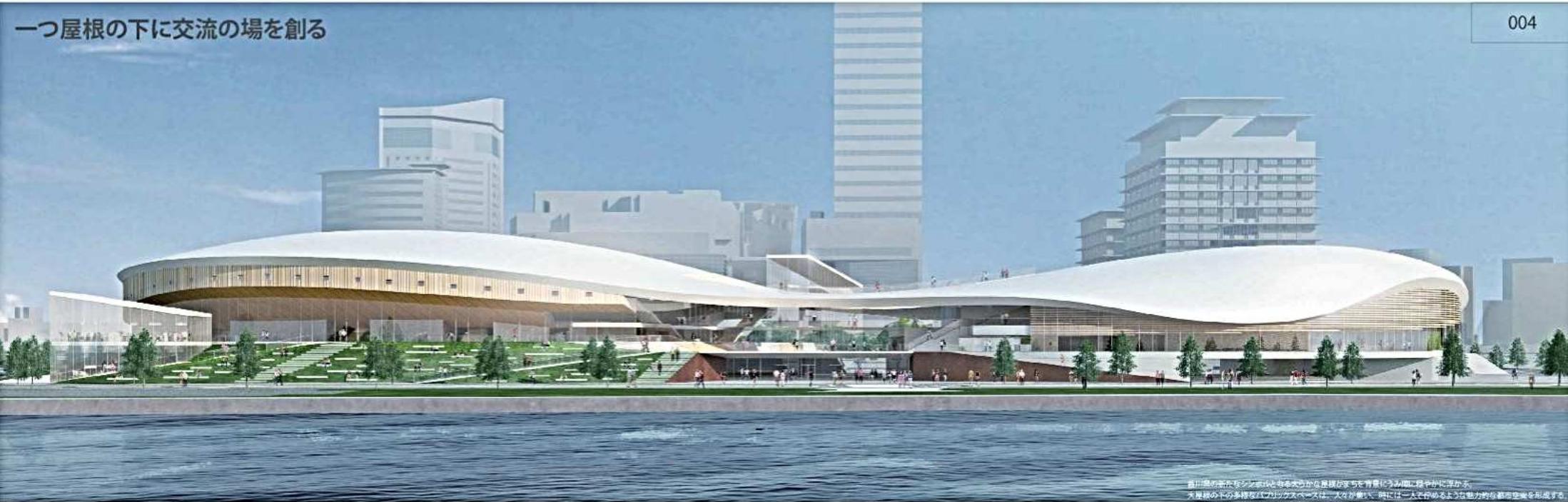


一つ屋根の下に交流の場を創る



瀬戸内の島ならではの自然環境がまちを背景にうみに身をやかす。
天蓋の下の多様なパブリックスペースは、人々が憩い、時には一人でやめるような魅力的な都市空間を形成する。

1 うみと陸の交流拠点としてのまちづくり



2 濠戸内の島なみや豊かな自然に呼応する大らかで印象的な姿の構築



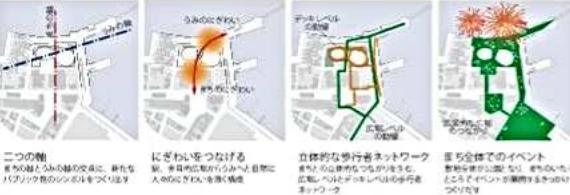
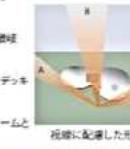
サブアリーナの低く抑えられた屋根から駅からのアプローチを受ける。多目的広場に面して両翼を広げた大らかな屋根がまちからまちに向かうゲートを形づくる。

1. まちづくり

- I. 文化や芸術が行き交い、にぎわいを創出する拠点を創り、地域全体にイベントが展開する新たな都市の魅力を創出
 - ・スポーツイベント、花火大会、瀬戸内国際芸術祭、さぬきマルシェ、瀬戸内マーナイトフェスティバル、サンポート浜松トライアスロン等の実績
- II. 周辺施設との連携・コンペション、スポーツツーリズム
- III. 教育全体を公園ととらえ、まちからうみへ来し歓楽できる広域性を創出
 - ・各目的広場からシーフロントプロムナードへ
 - ・広場レベルと屋外デッキレベルの歩行者ネットワーク
- IV. 港内でのみを眺めながら発案した時季を過ごせる場所
 - ・1日中、あるいは鉄道、船、バスの待ち時間を利用して

2. 姿の構築

- I. 祭事性と日常性を併せ持つ姿
- II. 瀬戸内の島らしいパブリック性を象徴する姿
 - ・2つのアリーナを一体的に纏う屋根が四辺デッキの上に浮かぶ
- III. 人々に様々な情報を抱きこませる度を抑えて優しくされた形
 - ・穏やかに浮かぶ白雲、瀬戸内に浮かぶ島嶼、瀬戸山脈の山並み
- IV. 終晩までユーマンスケールの高さにある豆足デッキに様々なアクティビティが展開する
- V. 周辺施設からの眺望に配慮した程やかなボリュームと優しい形態



大らかと丸みを帯びたエントランスが来館者を迎える。開放的な交流プロローグを通じて人々を自然につなげと導く。回遊デッキと繋がるスロープがつながり、立体的なパブリックスペースによって多様な機能が展開する場所がつぶれる。

3 地域に開かれたコミュニティの場・にぎわいのあるイベントの舞台



3. 場の構造

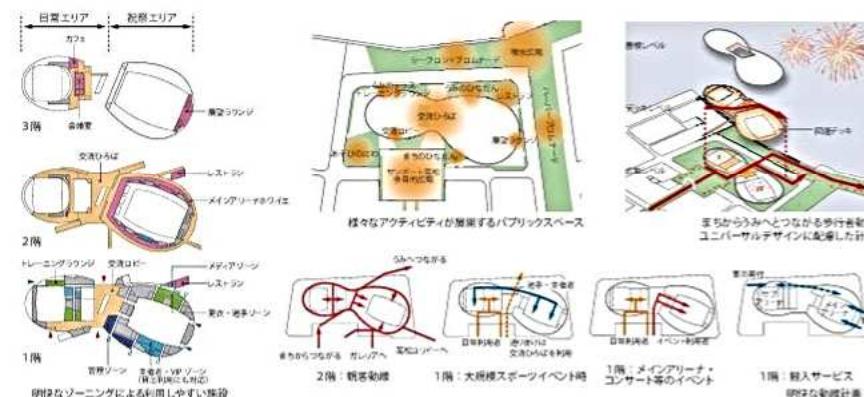
1. 日々の日常生活も様々な活動が繋り広げられる場所
- II. 多様なパブリックスペースが立体的に展開する公園のような体育施設
- III. 交流ロビーを介した一貫的な構成による、施設の相互連携による多様な利用の展開
- IV. 日常と接するイベントのスペースとなる露天テラス
- V. 楽働率を高める平時計画
- VI. イベントのない日の日常利用：

 - メインアリーナホワイエ、展望ラウンジ
 - イベントのない日の単独貸出利用：

 - メインアリーナホワイエ、展望ラウンジ、レストラン、カフェ、会議室、主催者、VIPゾーン

- VII. 「する」「憩う」「支える」を通じて、交流し、人々がコミュニティのつながりを育むする
- VIII. ランドスケープと一緒にとなった緑豊かな環境
- IX. コニバーサルデザインに配慮した施設

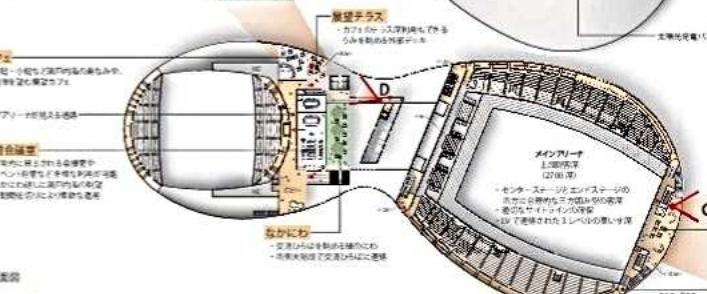
人々をうみへと導く交流ロビーにはラウンジやキッズスペースを設け、民衆の出会いと交流を図る。ガラススクリーンを通して多目的ルーム（武道場）やサブアリーナの活動が垣間見え、人々をスポーツへと誘う空間となる。ロビーを介して施設会館が一体的に結ばれる。各施設の相互通換による多様な利用が可能となる。



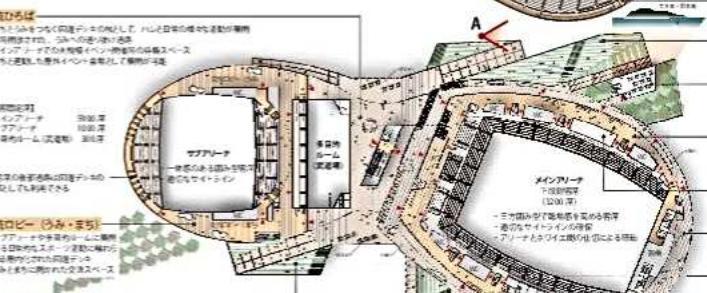
星形圖



3階平面図



2階平面図



1階平面図



1階子細図

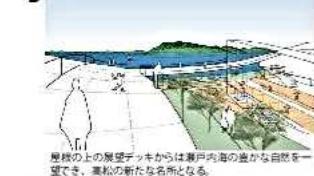


A



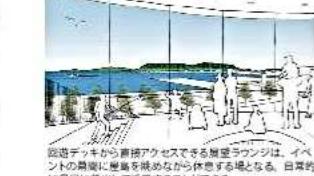
うみのひなたんは東戸の海のまなみを眺めながら暖かく時に祝を祝する場であり、花火大会やトライアスロン大会では観客席ともなる。暖かみのある木で仕上げられたメインアリーナのホワイエはイベントの無い時には市民に開放し、活用することができる。

B



屋上の上の展望テラスからは東戸内海の豊かな自然を一望でき、海の新たな名所となる。

C



露天テラスから直接アクセスできる展望ラウンジは、イベントの最盛期に見島を眺めながら休憩する場となる。日常的に開放される。

D



露天テラスから直接アクセスできる展望ラウンジは、イベントの最盛期に見島を眺めながら休憩する場となる。日常的に開放される。

E



あそびの広場は多目的広場と共に、様々なイベントに活用される。自転車スポーツ活動や子供たちが遊び場を展開し、コミュニティのつながりを共有する場となる。

F



露天テラスはフリーターミナルやサーキット施設からブリッジつながられ、楽しく憩える施設を生まれ出す。人々が船や電車の待ち時間を見つめ合いつくる場となる。



4. サステイナビリティ・合理的な環境性能、構造性能を備えた建築

I. 社会的サステイナビリティ

- a.多くの人々に喜ばれるシンプルな建築デザイン
- b.実利で、利用しやすい施設
- c.フレンドシップルームを使い、様々なイベントが開催できる施設
- d.周辺環境への配慮
- e.ユニバーサルデザインに配慮した施設

II. 地理的サステイナビリティ

- a.時代のニーズの変化に柔軟に対応出来る構造システム
- b.建物の長寿化：塗装材を施した建築材料、設備機器

III. 管理上のサステイナビリティ

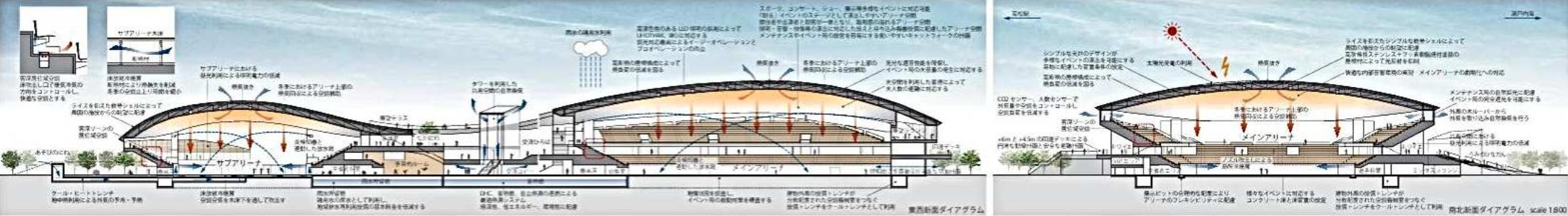
- △運営・維持管理が容易な施設
- イベントに際し、短期間で床面積が可能な平面計画
- 設備や部材の容易な更新性
- 大きなメンテナンスコストが掛からない施設管理
- 操作性の良さなラントスケープ

IV. 環境的なライフサイクルコストマネジメント：建設コスト予算内で、エネルギーと保全コストを

削減する対策への必要なコスト配分を検討

メインアーニー・複数性を共にする象徴的な施設

跳ね型の床板と包み込むようした天井によって、熱技者と観客の一休憩を創出する。ハレの場を様々に演出でき、多様なイベントに対応できる施設性をもえた空間。アートフェスティバルなどのイベント時に、アーニーを屋外広場としても活用できる。



[1] 合理的な構造計画：諸条件に柔軟に対応する最新のシンプルな計画

I. 構造構造

- a.軽量シェル構造：低ライズの大スパン空間を実現のために、最新の製造技術を用いて最もシンプルな軽量シェルを実現
- b.埋立対策：臨海大規模複合施設の豊富な土砂管理実績を踏まえた最善の耐震対策とメンテナンス計画を行い、長く使い切られる運営を実現
- c.実験ベンチ：軽骨トスの実験時許容スパンを考慮してペント架台を設け、合理的な架台設計として工事開始を認める

II. 境界部分の構造

- a.軽骨トラスリング：開口部トラスと共に軽骨シェルのスラストを処理し、下部構造の負担を減らして快速な内部空間・外部空間を実現
- b.ひづつながりの構造：ひとつながりの構造によって大小アーニー間の搬送水平力をやり取りし、下部構造計画の自由度を高める
- c.地盤入力の伝達：軽骨トラスリングと下部構造の間に軸組合意を配置し、シエル構造特有の上下挙動を含めた地盤必要を也認

III. 下部構造

- a.主な構造：主体構造はRC造とし、耐震性不満足、工期縮短のため現床部分のP.C化によるコストバランスを考慮した上で合理性があれば基礎部分のP.C化検討
- b.日本沿岸ゾーンの部分的軽骨構造化：更新・改修に対する柔軟性を持たせるため、仕上を変更しやすい軽骨とすると
- c.基盤構造：活性化対策としての地盤改良と軽骨構造のベストミックスを検討またメインアーニー・アーニー部分の筋の強度等により、イベント時の筋り抜き対策を施す

IV. 構造システムダイアグラム

[2] 合理的な環境計画：3段階の手法により高効率なエネルギーを実現

- 第1ステップ：適切なバッジ手法
 - a.最新熱循環による熱負荷の遮断
 - b.ドーム型の屋根から熱負荷抑制
 - c.ナイトバイパスによる冷房負荷上昇
 - d.サブアーニーの蓄電池による熱負荷の低減
 - e.クールトレンチによる外気の干渉・予熱
 - f.夏季におけるアーニーの熱吸収
 - g.大容量雨水の蓄水利用
- 第2ステップ：複数化アーニー手法
 - a.ドーム型の屋根による熱負荷遮断
 - b.ドーム型での自然換気による安全な遮断
 - c.サブアーニーの床敷料冷暖房
 - d.CO₂濃度による外気混和制御
 - e.冬におけるアーニー上部の熱負荷回収
 - f.アーニーの蓄電池利用
- 第3ステップ：計算地の導入インフラの有効活用
 - a.ドーム型とサブアーニーの有効活用
 - b.太陽光発電の利用

[3] 熱循環計画：高いSHP機能の維持

1. 誤解：アーニーの大きな気塊を利用した蓄電効果、明るな平面及び内部計画による安全性確保
2. 災害想定と連動する放水栓消火網
3. CO₂センサー、熱センサーで外気との温度コントロール、空調負担を低減する
4. 太陽光発電の利用
5. 災害時の一次警報と支援施設としての機能

[4] 周辺環境への配慮

1. 住戸のボリューム、住居環境との関係
2. イベントの騒音・振動対策
 - a.配慮による配慮
 - b.遮音性能の確保
 - c.防護壁の設置
3. 大屋根の反射抑制
4. アーニー空間からの光漏れ防止
5. 街灯照明計画

[5] 周辺環境への配慮

1. 住戸のボリューム、住居環境との関係
2. イベントの騒音・振動対策
 - a.配慮による配慮
 - b.遮音性能の確保
 - c.防護壁の設置
3. 大屋根の反射抑制
4. アーニー空間からの光漏れ防止
5. 街灯照明計画

うみ



多様な活動をめぐらす光が公共空間にやかな象徴性を生み出す

■ 確実な事業の推進のために

I. 施工工程計画

- a.手配りのない進行：選択的な事業スケジュールの立案
- b.適切な工程の把握：段階別初期段階における各専門家との十分な協議によるプログラムの設定
- c.対応による柔軟な設計プロセス
- d.概要に基づく技術、仕様検査
- e.わかりやすいプレゼンテーション
- f.確実なコスト、品質コントロール
- g.パラメトリックな3D モデリングによる柔軟な対応

II. 工事工程計画の工夫

- a.一型で地下部分の少ない計画
- b.土工事でのオープンカットとディープカットの技術
- c.軽骨構造のP.C化
- d.既設工事を想定する、建て方時のペント架台導入
- e.軽骨建て方時のキックオフ、設置の一体性込みの工夫
- f.2階層区を工事中の仮設ヤードとして活用

III. 工事工程表

工程名	工程内容	工程期間	工程終了日	工程名	工程内容	工程期間	工程終了日
1. 基礎工事	基礎工事	1ヶ月	2023/1/31	2. 土木工事	土木工事	1ヶ月	2023/2/28
3. 壁工事	壁工事	1ヶ月	2023/3/31	4. 天井工事	天井工事	1ヶ月	2023/4/30
5. 外装工事	外装工事	1ヶ月	2023/5/31	6. 内装工事	内装工事	1ヶ月	2023/6/30
7. 設備工事	設備工事	1ヶ月	2023/7/31	8. 完成検査	完成検査	1ヶ月	2023/8/31

IV. 工事監査表

工程名	工程内容	工程期間	工程終了日
1. 基礎工事	基礎工事	1ヶ月	2023/1/31
2. 土木工事	土木工事	1ヶ月	2023/2/28
3. 壁工事	壁工事	1ヶ月	2023/3/31
4. 天井工事	天井工事	1ヶ月	2023/4/30
5. 外装工事	外装工事	1ヶ月	2023/5/31
6. 内装工事	内装工事	1ヶ月	2023/6/30
7. 設備工事	設備工事	1ヶ月	2023/7/31
8. 完成検査	完成検査	1ヶ月	2023/8/31

V. 施設表

施設名	位置	面積	用途
1. 基礎工事	基礎工事	1000m ²	基礎工事
2. 土木工事	土木工事	1000m ²	土木工事
3. 壁工事	壁工事	1000m ²	壁工事
4. 天井工事	天井工事	1000m ²	天井工事
5. 外装工事	外装工事	1000m ²	外装工事
6. 内装工事	内装工事	1000m ²	内装工事
7. 設備工事	設備工事	1000m ²	設備工事
8. 完成検査	完成検査	1000m ²	完成検査